

横浜市立太田小学校マニフェスト(中期学校運営計画)

計画期間

平成19年1月1日～平成23年3月31日

学校教育目標

自分らしさを発揮し、自分の思いや願いを豊かに表現できるようにする。(個性)
 自分で考え判断し、進んで行動できるようにする。(自立)
 人や自然との豊かなかかわりを通して、互いに認め合い、地域社会の一員として育っていくようにする。(共生)

学校経営方針

「個性」、「自立」、「共生」の学校教育目標を「思いを伝え合い、進んでチャレンジ、みんな仲良く、輝け太田の子」をキャッチフレーズにして取り組んでいきます。そして、子ども、保護者、教職員が、安心して元気に登校できる楽しい学校をめざします。
 校内研究では「豊かな関わりを通して、聴き合い、伝え合い、認め合う」を研究テーマとして取り組みを行う。
 子どもたち一人ひとりの特性をとらえ、全職員で特別支援教育の取り組みを進めていきます。
 *重点として幼保小中の連携、異学年交流、地域の人たちとの交流などを積極的に進めます。

指導の重点

- (1)分かる楽しさ、出会う楽しさ、活動する楽しさを味わえる授業展開を工夫します。
- (2)積極的な情報の共有と保護者等の授業参加により、開かれた学校運営に努めます。
- (3)繰り返し、繰り返し、根気よく基礎基本の定着を図ります。
- (4)自分の好きなこと、好きなところを見つける手助けをしていきます。

改善の視点

取組目標

1 児童・保護者・教職員の信頼関係を築いていく必要があります。

・研究授業と授業参観を合わせることで、参観の機会を増やしたり、教育相談日や個人懇談、三者懇談等を活用して、直接関わる場を積極的に作っていく。学校便りや保健、給食だより、学年便り等を活用して積極的に子どもたちのよすや学校の取組みを発信していく。学校評価A、Bが85%以上の項目が平成18年度19項目中4項目(約2割)を23年度には9項目(約5割)にする。

2 安全で安心できる楽しい学校生活を送れるようにする必要があります。

・19年度より防犯・防災情報のメール配信を試行し、迅速かつ正確な情報伝達に努める。低・中・高学年で防犯教室や交通安全教室等を実施するとともに、各学級で学級指導に力を入れる。月に一回安全点検日に防犯ブザーの点検を行う。登校時の校門での教師による見守り活動と下校時の見守りボランティアによる下校の取り組みを継続し、学校評価のA、B評価85%以上をめざす。

3 地域や保護者との関わりを深め、開かれた学校にしていく必要があります。

・学習ボランティアやアシスタントティーチャー(学生ボランティア)、図書ボランティア、英語活動サポーターなどを呼びかけ、児童数の一割(36名)の登録をめざし、積極的に地域や保護者が学校にくる機会を増やす。・授業参観週間だけでなく、土曜日の授業や行事を年間3～4回確保する。・PTA、ダッズクラブ(おやじの会)、キッズクラブなどと連携して活動を進めていく。

<p>4 学習や生活の基礎基本を定着させていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイム(1モジュール)に計算、漢字、音読、リコーダーなどのドリル学習の定着を図る。 ・朝の読者タイムの定着を図り、読書習慣作りに取り組む。中央図書館の団体貸し出しや本となかよし(読み聞かせ)の活用。 ・話し方、聞き方、ノートづくりなど基本的な太田小の学習スタンダードづくりに取り組む。 ・生活科、総合的な学習の時間で培った学び方を他教科で活用して取り組む。活動や学習の流れや取り組みの振りかえりを大切に、記録としてまとめる。
<p>5 いじめや仲間はずれをなくし、学校が楽しいと思える取り組みが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会等で事例検討会をすることで、学級経営や児童の関わりについて具体的な支援策を検討し、担任が一人で抱え込まずにチームで対応していく。 ・教室環境や視覚的な教材の工夫による分かる授業、楽しい授業への取り組みを行い、学習意欲の向上を図る。 ・エンカウンターや振り返りカードなどを取り入れ、仲間作りに取り組む友達、学級の満足度の向上をめざす。 ・道徳やCAP、ロールプレーなどによる人権教育への取り組みにより、子どもたちの学級生活満足度(QUアンケートなどの活用)をあげる。
<p>人材育成の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員ですべての児童の指導にあたるため、後ろドアをはずし、気軽に授業を見合えるようにする。 ・授業参観も含め、講師に見てもらう授業や公開授業の機会を増やし授業力の向上を図る。 ・日常的に低・中・高学年のチームで研究や生活指導にあたる体制づくりに取り組む。 ・ハマアップの活用や積極的な近隣校の研究発表会への参加を呼びかけたり、情報交換ができるようにする。
<p>平成19年度の重点取組項目</p>	<p>特別な支援の必要な児童やいじめ等で配慮が必要な児童への関わりを深める。QUアンケート等の実施。校内特別支援体制による指導。 保育園、中学校との連携、異学年交流を通して、聴き合い、伝え合い、認め合う力を育てる取り組み。 全学級が共通に取り組む学習や生活の基本的なルール(太田小スタンダード)づくりを進める。</p>
<p>これまでの取組結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 積極的に学校の情報は発信してきた。学校評価も各行事ごとに受け迅速に保護者に発信してきた。 2 メール配信については実施し保護者の8割が登録した。 3 学習ボランティア、AT等児童数の一割の確保をめざしているが達していない。引き続き取り組んでいきたい。 4 太田小スタンダードについては全職員共通理解のもと進められている。徐々に効果が出てきている。日常の授業をお互い見合い、児童理解にもつながり効果が出ている。

明日を語る懇話会、
学校評価等の意見
等

- ・どの教師も同じ姿勢で子どもの指導にあたってほしい。
- ・子どもの安全、安心のために情報を極力保護者に伝えて欲しい。
- ・地震等への対応や校舎が古いことへの不安がある。
- ・いじめ等に積極的に取り組んで欲しい。
- ・授業参観など参観する機会をよく設けている。
- ・子どもたちが学校へ行くのを楽しみにしている。
- ・あいさつがまだしっかりでないようなので、地域でも声をかけていく。
- ・あゆみをもっと分かりやすくしてほしい。
- ・もっと厳しく指導した方がいい。
- ・もっと子どもの能力や努力を公平に評価してほしい。などの意見がだされた。

1 この計画は、横浜市教育委員会の定める「学校版マニフェスト(中期学校運営計画)」として策定したものです。

2 :重点項目